

内閣総理大臣賞

奇跡

徳島県 加茂名南小学校 五年 田渕 伶愛菜

よく遊んでいる公園の近くの小さな商店。

ある日、そこにカーネーションの小さな花束が売られていました。250 円です。

家で、一つお手伝いをしたら 10 円もらえます。がんばれば私にも買えるかも！母の日にお母さんにプレゼントしよう！

そう決めた日から、毎日毎日たくさんのお手伝いをしました。

母の日の朝に、ちょうど 250 円貯まって、なんとか間に合いました。急いでお店に行って、花束をお店のおばちゃんの所に持っていきました。

「お母さんにあげるん？ やさしいでえ。絶対喜ぶわ。ほな消費税入れて 270 円ね。」

「えっ！？ 270 円！？」

当時の私は、小学校に入学したばかり。消費税がかかることを知りませんでした。20 円足りないので買えず、悲しくて恥ずかしくて、泣きそうになりました。おばちゃんに、20 円足りないことを告げると、

「ほな消費税分まけてあげるわ。250 円でええよ？」と、言ってくれました。

それなのに、私は黙ったまま首を横に振ってしまったのです。まけてもらって買ったんじゃ意味が無い、私の力で貯めたお金で買ったかったのに！そんなふうに思ってしまった。おばちゃんは、困ったような顔をしていましたが、

「お金、数えてみるで？もしかしたらあるかもしれんよ？」と言いました。おばちゃんといっしょに 1、2、3……と数えていき、

「24、25、あれ！？ 26、27……！！あるわ！ちゃんとあるある！」

そんなはずないのです。家を出る前に、なんどもなんども数えたのに。

「きつとな、やさしい子やけん、神様が奇跡を起こしてくれたんじゃわ。良かったなあ！ほな、確かに 270 円もろうたけんな、ありがとう！」

おばちゃんはそう言って、包み紙にきれいに包んで持たせてくれました。不思議な気持ちで家に帰ってお母さんに渡すと、お母さんは私を抱きしめて、

「そうやったん、これ買う為にいっぱいお手伝いしてくれたんやなあ。うれしい！ありがとう！」と言って、涙を流して喜んでくれました。

あの日、奇跡を起こしてくれたのは神様……ではなく、おばちゃんだったのではないのでしょうか？いっしょに数えるふりをして、そっと 20 円足してくれたのだと思います。

今頃思い出して気づいたけれど、お店も無くなってしまったし、お礼を言いたくても、おばちゃんがどこにいるのかもわかりません。

もし今、会うことができるなら、私はこう言いたいです。

『あの時は、親切にしてくださってありがとうございます。そして、すてきな奇跡を本当にありがとうございます。』